

用することによつて、同氏自身を以て協調會の述べた過去十年間の業績を回顧せしめて、この建設期の叙述を終らう。

「協調會が……」の聲を擧げたのは實に大正八年十二月二十二日であつた。當事我國は恰も世界大戰の影響を受けて産業は飛躍的に發展し、これに伴うて激増せる労働者は儼然たる一大社會的勢力を作りて所謂労働運動を激成し、全國主要の公私企業に於て深刻なる争闘が頻發するに至つた。斯くて勞資共に眞面目なる敵愾心を懷きて對抗し、勢の赴く所、社會の福祉、産業の平和甜と庶幾し難きものかよつた。於是世局の趨向に鑑み、時の女相床次氏、徳川公爵、澁澤子爵、清浦伯爵、故大岡衆議院議長及朝野同愛の士の協力賛助

に依つて本會の創設を見、正義人道を根帯とし、階級協調を標榜し、堅實なる社會連帯の實現を期するに至つたのである。

先是、大戦中歐米より流入せる民主主義の精神は澎湃として全國に風靡したか、更にロシア及びドイツの革命等の影響を受けて極端なる社會主義乃至無政府主義の思想盛に唱導せられ、加ふるに絶えず護ひかゝる生活の不安や資本の壓迫は、益々階級意識を激成し、革命的直接行動の色彩を濃厚ならしめたのであつたか、其後之等の過激なる社會運動は各自目標を確認すると共に分裂整理せらるゝに至り、國際労働會議代表委員の選出、普通選舉法の施行其他政府並に理解を有する事業家の對策と相俟ちて漸次穩健化し、所謂現實主